

岩手県立図書館において超高精細スキャン装置による絵図撮影を実施しました (2018/12/12-14)

テーマ：東日本大震災、災害研究、歴史保存、超高精細スキャン
場所：岩手県立図書館（岩手県盛岡市）

2018年12月12日から14日にかけて、岩手県立図書館において、当研究所 人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野の蝦名裕一 准教授が、超高精細スキャン装置による絵図撮影を実施しました。

超高精細スキャン装置は、本学の世界トップレベル研究拠点において掲げている災害研究の一環として、世界最先端のデジタル技術によって文化財・歴史資料を高解像度で撮影・アーカイブ研究を展開するための設備です。一方で、この装置は大判の絵図をスキャン、また分解して持ち運ぶことが可能であり、移動が難しい貴重な文化財の撮影などに適しています。

今回、岩手県立図書館において、明治期の地租改正に際して作成された宮古町（現宮古市）、乙茂村（現岩泉町）の絵図などを撮影しました。これらの地域は、2011年の東日本大震災や、2016年の台風10号によって被害を受けた地域です。これらの被害と、古絵図に描かれた地形を比較すると、かつて河川の流路であった地域で津波や洪水の被害が発生している傾向がみとれます。今回の調査で得られたデータを活用して、文理融合型の研究をさらに展開し、将来の防災に資する成果につなげたいと考えています。

なお、今回の活動の一部は、外務省広報の海外向け紹介サイト“Web Japan (<https://web-japan.org/>)”で公開されています。

